

## 第 32 回日本生命倫理学会年次大会

### 一般演題および公募セッション募集 Web 開催版 (2020 年 7 月 17 日改訂版)

#### 改訂箇所

1. 募集期間の延長 (締切 : 8 月 7 日)
2. 一般演題の発表方法の詳細を追記
3. 若手優秀賞の応募資格の追記

大会長 松田 純 (静岡大学)

#### 1. 新型コロナウイルスへの対応

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ、会場での開催は行わず Web 大会とすることになりました。そこで改めて、新しい条件で、一般演題および公募セッションの募集を行います。締め切りも新たに設定しました。

※ 一般演題 : Web 上でのデータの公開 (ポスター発表の枠組みは廃止)

※ 公募セッション (シンポジウム・ワークショップ) : ZOOM によるライブ配信

- ZOOM の操作につきましては、実行委員会として十分なサポートを行います。

抄録集への掲載に加え、データのアップロードをした一般演題の発表者と、ZOOM によるライブ配信に登壇した公募セッション発表者に対しては、必要に応じて発表証明書を発行します。

#### 2. 演題募集

生命倫理学および関連分野に関するあらゆる演題を募集いたします。

#### 3. 演題募集期間

2020 年 4 月 13 日 (月) ~ 8 月 7 日 (金)

申し込み後の修正・削除は一切受け付けませんのでご注意ください。

#### 4. 応募資格

一般演題の筆頭発表者および公募セッション (シンポジウム・ワークショップ) の座長・オーガナイザーは、日本生命倫理学会の会員または入会手続き中の方に限ります。入会方法は、学会ホームページでご案内しています。

公募セッション (シンポジウム・ワークショップ) に関しては、申請者である座長・オーガナイザー以外の登壇者は必ずしも会員である必要はありません。

※尚、公募セッション (シンポジウム・ワークショップ) の報告者となられる非会員の方については、大会参加費は徴収致しません。

#### 5. 大会ホームページにおける抄録集の公開

今年度の大会では、例年通り抄録集を送付するとともに、大会ホームページ内で閲覧できるようにします。閲覧できる人の範囲は、大会参加申し込みをした人に限定されます。何卒ご了承ください。

## 6. 登壇回数の制限

理事会決定に基づき、年次大会では、一般演題（口演）、公募シンポジウム、公募ワークショップのそれぞれのカテゴリーにおいて、同じ発表者が二回以上登壇できなくなりました。ただし、今回の大会では、ZOOMによるライブ配信となる公募シンポジウム、公募ワークショップのみを制限の対象とします。

また、以下の点にご注意ください。

- ※ 制限の対象となるのは登壇者（実際にプレゼンする人）です。そのため、座長・オーガナイザーも登壇回数に数えられますが、氏名を連ねるだけの共同発表者は対象外となります。
- ※ 制限は公募シンポジウム、公募ワークショップのみを対象にしているため、学会企画・大会企画シンポジウムは対象外です。
- ※ 学会企画や大会企画シンポジウムも含め 1 大会の合計が 4 登壇以内であれば、同じカテゴリーで 2 回以上の登壇も認められます。

### 【具体例】

- ① （登壇回数 4 回）学会企画シンポジウム 1 回、大会シンポジウム 1 回、シンポジウム登壇 1 回、WS 登壇 1 回。  
⇒ 制限の対象となっているカテゴリーにおいて 2 回以上になっていないので認められる。
- ② （登壇回数 5 回）学会企画シンポジウム 1 回、大会シンポジウム 1 回、シンポジウム登壇 2 回、WS 登壇 1 回。  
⇒ 学会企画シンポジウムを含めると計 4 登壇以内ではなく、制限の対象となっているカテゴリーの公募シンポジウムにおいて 2 回以上になっているため、登壇回数は①のケースと同じであっても認められない。
- ③ （登壇回数 4 回）学会企画 0 回、大会企画 0 回、シンポジウム登壇 2 回、WS 登壇 2 回。  
⇒ 学会企画や大会企画シンポジウムも含め、全体の登壇回数が 4 回以内であるため、同じカテゴリーにおいて 2 回発表することも認められる。

## 7. 発表形式

一般演題、公募セッション（シンポジウム・ワークショップ）を募集します。応募のさいには、以下の項目を応募フォームに入力していただきます。入力中にトラブルが生じる可能性もあるため、Word ファイル等であらかじめ作成しておくことをお勧めします。

応募者情報	共通		
応募種別	一般演題	公募シンポジウム	ワークショップ
希望カテゴリー	○	—	—

若手優秀賞	○	—	—
タイトル・演題	○	○	○
専門分野	○	—	—
キーワード	○	○	○
倫理審査	○	○	○
発表者氏名（所属）	○	○	○
時間配分	—	○	○
発表要旨・概要 1000-1200字	○	○	○

### ■一般演題

今回の大会では、ウェブサイト上でのオンデマンド型の発表の方法を採用します。動画、音声、PDFファイルを公開できるようにする予定です。具体的な発表方式に関しては、以下の表をご覧ください。また、記名式の掲示板の設置などを通じ、大会参加者との意見交換の機会を設けます。

なお、動画の作成方法など、技術的な質問については、学会情報委員会がサポートを行います。

	発表形式	発表ファイルの条件	備考
発表方法① <b>推奨</b>	15分以内の動画による発表	<u>画質</u> HD (720p : 1280×720) <u>動画形式</u> 原則として MPEG-4 ビデオ (.mp4)。ただし他の形式にも対応できるようにします。	自著論文や補遺図表など、参考資料を掲載することもできます(5点以内を目安、PDF形式)
発表方法②	15分以内の音声による発表 +プレゼンテーションファイル	<u>音声ファイル</u> MP3 (.mp3) <u>プレゼンテーションファイル</u> PDF	
発表方法③	プレゼンテーションファイル	<u>プレゼンテーションファイル</u> PDF	

### <「若手優秀賞」について>

「若手優秀口演賞」及び「若手優秀ポスター賞」は、本学会の若手会員による優れた研究報告を表彰することにより、若手会員の学会参加を促進し、また今後の研究活動の発展を支援・奨励するために創設されました。今年度はWeb開催に伴い、ポスター発表の枠組みが廃止となったため、若手会員の当日の発表を審査基準に則って審査し、「若手優秀賞」者を決定します。対象は、以下の応募資格に該当し、審査対

象になることを希望される方とします。対象演題が多数となった場合には、事前審査を実施し、候補演題を選考する場合があります。以下の応募資格に該当する方は、ぜひ演題登録のさいにお申し込みください。

#### <応募資格>

1. 「動画」もしくは「音声+プレゼンテーションファイル」による発表を行う予定の方。（上記表の発表方法①～③のうち、①ないしは②を選択予定の方。）
2. 原則として、筆頭発表者が40歳未満の方（2021年3月31日時点）とします。
3. 筆頭発表者が40歳以上で、以下のいずれかにあてはまる場合には、これを証明もしくは事情を説明する文書を提出することにより、応募可能とします。これらの文書は、2020年8月7日までに（当日消印有効）、日本生命倫理学会事務局宛（〒112-0012 東京都文京区大塚 5-7-11-612）に郵送して下さい。
  - a. 年次大会期間中に大学院修士課程・博士課程在学中の方  
⇒ 学生証または在学に関する証明書の複写を郵送して下さい
  - b. 2021年3月31日時点で博士号を取得して3年以内の方  
⇒ 学位記または学位取得に関する証明書の複写を郵送して下さい
  - c. 2018年4月1日以降に、初めて博士研究員・助教（任期つきを含む）の職を得た方  
⇒ 職歴を記載した文書（自由書式で400字以内）と、証明できるものがある場合はその複写を郵送して下さい
  - d. 育児・介護・病気療養などで1年以上の研究中断があり、演題募集締切日までに復帰している方  
⇒ ご事情を記載した文書（自由書式で800字以内）と、証明できるものがある場合はその複写を郵送して下さい

#### <「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の遵守について>

- ※ 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省）、「臨床研究法」（厚生労働省）の対象となる研究については、同指針を遵守し、審査を行った倫理審査委員会の名称と、与えられた承認番号を抄録に記載してください。
- ※ 同指針の対象外であっても、人を対象とした調査研究に関する発表の場合は、下記のいずれかを抄録に記載してください。
  - （倫理審査委員会による審査が行われた場合）審査を行った倫理審査委員会の名称と、与えられた承認番号を抄録に記載。
  - （倫理審査委員会による審査が行われなかった場合）研究対象者に対する事前の説明と同意（研究協力及び結果の公表を含む）が適切に実施されたことを抄録の本文中に記載。
- ※ なお、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」では、研究対象者への侵襲や負担に関する考え方や匿名のアンケートやインタビュー調査などでのインフォームド・コンセントのありかたが示されており、同指針の対象外となる研究を実施する際にも、参考にして下さい。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/>

※ また、演題応募の段階で応募者自身が「指針に該当しない」と判断した場合であっても、査読の結果、実行委員会が「指針に該当する」と判断した場合には、その旨を応募者に通知し、抄録の記載を修正して頂くこともあります。

### **<COI（利益相反）の開示について>**

※ 各発表者における COI（利益相反）については、発表に関連して開示すべき利益相反がある場合のみ、「COI 開示に関するスライド」をダウンロードし、発表資料の冒頭に掲示して下さい。

※ 開示すべき利益相反がない場合は、何もする必要はありません。

※ なお、COI（利益相反）の詳細に関しては、以下 URL にアクセスし、日本医学会「医学研究の COI マネジメントに関するガイドライン」をご参照下さい。

[http://jams.med.or.jp/guideline/coi-management\\_2015.pdf](http://jams.med.or.jp/guideline/coi-management_2015.pdf)

### **<二重投稿について>**

\*発表内容に関しては原則として、未発表のものとしします。

### **<公募カテゴリー>**

- A. 生命倫理の基本概念
- B. 研究倫理、産学連携
- C. 先端医療技術、医療化
- D. 医療経済、資源配分、公共政策
- E. 臨床倫理、看護倫理
- F. 生殖医療、産育、家族
- G. ケア、介護、福祉
- H. 終末期医療
- I. 宗教、思想、文化
- J. 環境・自然保護、大規模災害
- K. 医療安全、医薬品評価
- L. 生命倫理教育
- M. その他

\*カテゴリーは変更される場合があります。

### **■公募セッション**

90 分のセッションを公募します。第 32 回年次大会では、「価値観と文化の多様性にむきあう生命倫理学」をテーマとしています。応募多数の場合には、採否において大会テーマにより関連性のあると考えられるものを優先して採択する方針です。ご希望にそえない可能性もありますので、ご了承ください。

## 公募シンポジウム

- 90分（報告時間はオーガナイザーの趣旨説明や登壇者間のパネルディスカッションを含めて60分以内）
- 採否決定後、各報告者の発表要旨を提出していただきます。

## ワークショップ

- 90分（報告時間45分以内、フロアを交えたディスカッション45分以上）
- ワークショップの各報告者の発表要旨は不要です。

## 8. 応募方法

- ① 以下のURLから応募をして下さい。  
- <https://forms.gle/GmwuU1zDSjaTawWn9>
- ② 締め切りは2020年8月7日（金）です。締め切り厳守でお願いします。
- ③ 抄録のレイアウトは実行委員会で行い、応募者による校正は行いませんのでご了承ください。

## 9. 応募の確認・採否の通知

演題の応募受付後に、登録したメールアドレス宛に確認のメールが届きます。もし届かない場合には、登録メールアドレスに誤りが含まれている可能性があります。また、Googleフォームからのメールとは別に、事務局からも受付確認のメールを送付します。

応募フォームに記された「発表要旨／概要」を年次大会実行委員会で検討させていただき、8月下旬に採否の連絡をいたします。

## 10. お問い合わせ先

第32回日本生命倫理学会年次大会事務局

静岡大学人文社会科学部社会学科 堂園研究室  
〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836  
Email : 32-shizuoka@ja-bioethics.jp

## 11. ホームページ

第32回日本生命倫理学会年次大会ホームページ

<https://ja-bioethics.jp/conference/top32/>

## 12. 今後のスケジュール

4月13日 一般演題、公募シンポジウム、公募ワークショップの演題募集

8月7日 応募締め切り  
8月下旬 採否決定通知  
9月 案内、チラシ、ポスター、事前参加用振込用紙発送  
11月 予稿集 HP 公開

### 13. 第32回日本生命倫理学会年次大会実行委員（敬称略）

松田純（大会長、静岡大学） 堂園俊彦（大会実行委員長、静岡大学） 青田安史（大会事務局長、常葉大学） 天野ゆかり（会計、静岡県立大学） 神馬幸一（大会副事務局長、獨協大学） 會澤 久仁子（国立循環器病研究センター） 小出泰士（芝浦工業大学） 鍾宜錚（大谷大学） 竹下啓（東海大学）  
中澤栄輔（東京大学） 浜渦辰二（上智大学） 本家淳子（浜松医科大学）  
伊吹友秀（学会事務局長、東京理科大学） 松原洋子（学会企画委員長、立命館大学）

2020年6月9日現在